寄　付　制　度

皆さまからのご寄付は、おもに以下のような取り組みに活用させていただきます。
引き続きの温かいご支援をお願い致します。

・人材育成、能力開発、生計・生活環境改善支援などの推進
・日常生活・社会生活を営むうえで困難や課題、心配を抱える方々に向けて
自然の魅力・恵み・癒しなどを体感いただく環境教育の推進
・これらの活動を支える職員スタッフの活動費　など

※ JEEFにいただいたご寄付は、税制上の優遇措置を受けることができます。
※ 機関誌「地球のこども」に寄付者のお名前を掲載させていただきます。(希望されない方は除く)
※ 6,000円以上ご寄付をしてくださった方には、ご寄付をされた月から1年間、機関誌「地球のこども」をお送りいたします。

【活動例１】がん患者のための園芸療法
　外に出られなくても、本物の植物に触れることで心と体が反応し、健康効果（自力で体調を本来の状態に近づけようとする作用）が働きます。

〔「認定特定非営利活動法人がんサポートコミュニティー」様との共催事業です。〕

【活動例２】インドネシア　マラサリ村の生計・生活環境改善支援
　インドネシア駐在員が中心となり、ジャワ島の国立公園内にあるマラサリ村でヤシ砂糖加工品（GULAHE：グラヘ）の生産および販売促進の支援をすることによって、地域住民の生活支援と環境保全の両立を目指します。

【その他】修学旅行・学習支援活動、　青年海外協力隊Café　など

【寄付の方法・種類】

1回だけ任意の金額を寄付したい
　クレジットカードまたは銀行・郵便局から、いつでも好きな金額でご寄付いただけます。

継続的に寄付支援したい
　クレジットカードで毎月一定額をご寄付いただく仕組みです。

スポーツチャリティを通じて寄付したい
JEEFは、『大阪マラソンのオフィシャル寄付先団体』および
『東京マラソン2021チャリティ事業の寄付先団体』です。

（企業の皆さまへ）社会貢献型『株主優待』のご検討を！
　株主優待において、自社製品や金券等の配布以外に、相当額を環境活動等を行うNGO団体に“寄付”する選択肢を設ける例が年々増えています。株主を巻き込んだCSR活動をご検討下さい。

【お問い合わせ先】　kifu@jeef.or.jp　／　03-5834-2897　（寄付担当まで）

J.E.E.F Japan Environmental Education Forum 日本環境教育フォーラム

JEEF通信　きふ活（2019年度）

公益社団法人日本環境教育フォーラム〔https://jeef.or.jp/〕

温かいご支援、ありがとうございました！

寄付金を活用した取り組み

寄付金使途を計画するうえで、わたしたちは
“誰ひとり取り残さない環境教育”　や　**“未来につなげる体験学習”**
のあり方を模索しています。
2019年度のおもな取り組みについては、以下の通りご報告申し上げます。

日常生活や社会生活を営むうえで困難や課題・不安を抱える方々への
・自然の魅力・恵み・癒しなどを体感いただけるような環境教育プログラム
・将来のために学ぶ意欲を喚起するような体験学習プログラム

〔取 り 組 み〕がん患者のための園芸療法 ①　～ 千葉県

主催：　がんサポートコミュニティ、自然環境復元協会、日本環境教育フォーラム
協賛：　株式会社東京堂
2019年9月24日（火）＠千葉大学柏の葉キャンパス 環境健康フィールド科学センター

　千葉大学園芸学部准教授で園芸療法士の岩崎寛先生にワークショップ「がん患者のための園芸療法」を実施いただき、講座＆ハーバリウム作りで11名の患者さんたちと１時間半の楽しいひと時を過ごしました。
　ハーバリウム作りでは、㈱東京堂・松本様からお花等の資材提供や作り方のコツをご指南いただき、素敵な作品が完成しました。
　岩崎先生からは、「造花ではなく、本物の植物に触れることで心と体が反応し、健康効果（治療ではなく、自力で体調を本来の状態に近づけようとする作用）が働くんですよ。」とか、「置き場所にもこだわってください。視野に入りやすいところに置くことでストレスが緩和されますよ。」など、研究データを交えて解説がありました。
　完成した作品（ハーバリウム）は皆様お持ち帰りされましたので、今頃はそれぞれのご家庭のテーブルなどに置かれているのかな・・・と想像します。
　外に出れなくても、本物の植物に触れることで心と体が反応し、自然の恵みや癒し効果を体感できる。これも自然の大きな魅力の1つですね。

〔取 り 組 み〕がん患者のための園芸療法 ②　～ 大阪府

主催：　がんサポートコミュニティ、自然環境復元協会、日本環境教育フォーラム
2019年11月16日（土）@つるやホール　会議室（大阪市中央区）

講師に園芸療法士の豊田正博先生（淡路景観園芸学校園芸療法課程 准教授）をお招きし、3名の患者さんたちに約１時間、講座＆マインドフルネスを実施いただきました。

マインドフルネスとは、宗教的要素を排除した瞑想の一つ。今感じている感覚に意識を向けること。姿勢を整え、足の裏が地面についている感覚を感じる。膝の上に置いた手のひらの温かさを感じる。鼻呼吸で吸った時の息の冷たさ、吐く時の息の温かさを感じる。心地の良い匂いを感じる、等々。大切なのはその時に、言葉を使わずに感じること。これが脳を休ませることにつながり、集中力や感情調整力、創造性向上のみならず、免疫機能の向上を導くようです。

豊田先生の優しく語り掛ける声とローズバッツのほろ甘い香り、そしてマインドフルネスによって、わずか1時間でしたが患者さんたちもスタッフも心穏やかで心地のよい時間を過ごすことができました。

室内であっても、植物を見て、植物に触れて、自然の香りを楽しみながら、或いは映像を通して自然の景観を見ることでストレスや不安を和らげる癒し効果をしっかりと体感できることを患者さんたちに知っていただけたと感じます。

身近にある緑や自然に意識を向けることって、とても大事なことですね。

〔取 り 組 み〕福島の子ども達とおもいっきり学ぶ　～ 福島県

2020年1月24日（金）@かなや幼稚園（福島県いわき市）

福島県いわき市にあるかなや幼稚園で、年長さん32人に『ペンギンとひなたち』のワークショップを実施しました。

まずは大きなペンギンのポスターを見ながら、自分たちの体とペンギンの体の違いを比べます。小さい子たちがすごいのは実際に触ったことがないペンギンのさわり心地までイメージできること。「ペンギンのおなかの辺りさわったらどうかな？」と聞くと、まるで目の前に本物のペンギンがいるかのように「ふわふわ！」と一斉に応えてくれます。じゃあ何でペンギンはふわふわおなかをしてるんだろう？ということで、素手と手袋をした手でそれぞれ氷をぎゅっと握りしめてどちらが冷たいか実験してみます。「きゃー！つめたーい！」「えー！てぶくろしてるとあったかい！」などと部屋中に歓声を響かせながらの探究。

ペンギン歩きでお部屋に戻って、紙袋で1人一匹ペンギンを作ります。思い思いのペンギンを作ったら、ペンギンたちに食べさせるエサも自分たちで描きます。ちゃんと自分のペンギンが食べられる大きさの魚を描いているのがなんとも可愛い♪

ここで時間になってしまったので、続きはお昼ご飯食べてからにしようねーとアナウンスすると、1人の男の子が「ぼく夢中になってたのに…」としょんぼり。あぁぁごめんよぉ><

でもそれだけのめり込んでくれたのは嬉しい！子ども自身が、自分はいま夢中になっているんだって自覚できるのはすごいなぁ。僕たちの方が元気をもらえるワークショップでした♪

＊かなや幼稚園とJEEF＊　東日本大震災直後に放射能の影響で外遊びが制限されてしまった子どもたちが、室内でも思いっきり遊んで学べるようにしたいという先生たちの想いを伺い、研修を担当しました。その後は毎年JEEFに寄せられる寄付金の一部で出前授業を続けています。 もう外遊びの制限はなくなっていますが、まだ草木や土に触れさせたくないという保護者もいるため、室内の環境教育が重要になっています。

学校教育を補い、子どもたちが自発的に学ぼうとする気持ちを喚起するような環境教育

〔取 り 組 み〕修学旅行の学習支援で環境教育を

2019年10月24日（木）@JEEF・木の会議室

修学旅行を利用した社会学習の一環として、NGO・NPOを訪問し学びを深めるプログラムを取り入れる学校が増えています。

JEEFでも、2016年から毎年秋に盛岡市立下橋中学校(岩手県)の2年生4～6名を受け入れ、学校の方針・要望に沿ったかたちで約2時間「共に学びあう場」を設けています。

職員との交流、ワークショップを通じて、環境問題をはじめ現代社会の様々な課題について考え、視野を広げ、日常に繋がる ”自分ごと” に落とし込む作業をすることで学びを深めていきます。今年は、男子生徒4名が訪れてくれました。

「JEEFの皆さんはどんな仕事をしているの？」「日本は外国に比べて温暖化への取り組みが鈍いと言われているけれど、JEEFではどのような活動をしているの？」「温暖化対策で僕たちがやらなければいけない事って何？」などなど、
質問の嵐が止みませんでした・・・

〔取 り 組 み〕離島の中学生に環境教育を　～ 利島（東京諸島）

2019年12月18日（水）@利島村立利島小中学校（東京都利島村）

すべての子どもに目が行き届いていて、子どもたちも皆、礼儀正しく朗らかで、人懐っこい。理想的とも思える学校教育の現場にお邪魔してきました。

東京・竹芝桟橋から132.7km。大島の南27kmに浮かぶ、周囲約8km・人口約300人ほどの小さな島、利島（としま）。その小さな島にある、全校生徒36名（教職員29名）の 利島村立利島小中学校から、課題追究学習を実施していくうえでのキッカケとして環境教育をやってもらえないかとの依頼を受け、中学3年生(3名在籍）を対象に「総合的な学習の時間：50分」をいただいて授業を実施してきました。

授業では、直近のCOP25やノーベル化学賞に関する話題、クイズを交えながら、KP法を使って前半25分くらいを地球温暖化（対策）について対話し、後半の20分は「SDGs」への取り組みが地球温暖化を始め複雑に絡み合う様々な社会課題の解決への1つのアプローチであるということをお話しました。17のテーマから自分の人生で大切にしていきたいと思えるテーマを6つくらい選んでもらい、それらを自分ごとに捉えるワークもしてみました。

今回の総合的な学習の時間を機に、中学3年生主導で校内の小中学生たちがSDGsを通して行動変容のステージを自ら進めていくことを期待しています！

島には高校がなく、彼らは高校進学の段階で必然的に島を出ることになります。今は意識できなくても、おそらく、島を出て初めて自然の恵みの尊さや利島での暮らしの素晴らしさを心の底から実感していくのかなと想像します。人と地球、利島の未来のために行動できる人に成長していかれることと期待が膨らみます。